

Title	創造空間開発による新たな能力競争(技術経営(1),一般講演,第22回年次学術大会)
Author(s)	旭岡, 勝義
Citation	年次学術大会講演要旨集, 22: 58-61
Issue Date	2007-10-27
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/7208
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

1 C O 3

創造空間開発による新たな能力競争

○旭岡勝義（（株）社会インフラ研究センター）

はじめに

1. 創造性の発揮と新たな経営
2. 創造能力の創出のためのインフラ
3. 創造空間の構築戦略
4. 創造空間開発の能力競争の将来

最後に

はじめに

企業環境は上向きとは言え、多くの課題が山積している。

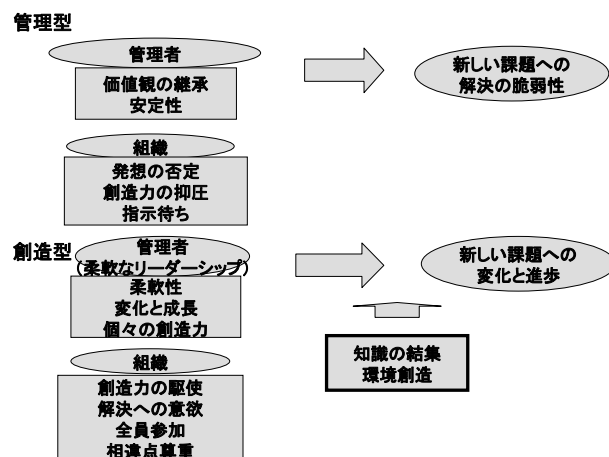
高齢化社会、グローバル競争、能力開発、情報処理等の技術革新スピード等重要課題の中で、今後特に、企業競争にとって重要な「創造性と生産性」及び「高付加価値化」は、業種の関係なくまた企業規模に関係なく大きなニーズである。

また、企業現場では、創造性の発揮、情報やセキュリティー技術環境の見直し、多様な雇用スタイル、エネルギーの高い共創場の構築等世界的な競争戦略の勝ち残りとして、本格化しつつある。創造空間開発や創造空間の新しい方向を経営戦略の一環として検討する。

1. 創造性の発揮と新たな経営

いまや経営は管理型経営から創造型経営への移行期である。

管理型から創造型への移行



2. 創造能力の創出のためのインフラ

創造性が今後の企業競争にとって、極めて重要な要素になっていることから、職場や研究所等の空間に、

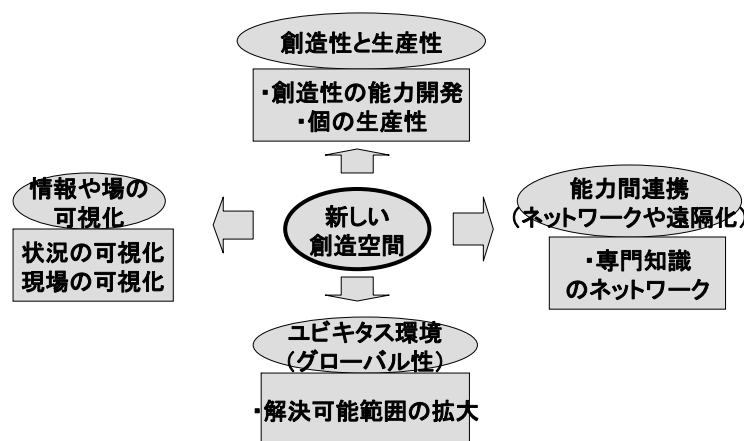
- 1) 従業員や研究者の自由な発想、創造的な発想を刺激する空間
- 2) 働く環境としての快適性や自然環境等の癒しの空間
- 3) 組織の壁を取り払った、共創空間や異分野の融合空間
- 4) 顧客等との交流空間
- 5) 情報共有や状況共有を可能にする空間

等を盛り込みながら、個や組織の創造性強化の動きが急である。

そこには、新たな経営スタイルの構築が求められている。

2. 創造能力の創出のためのインフラ

1) 問題意識



つまり、今後の世界的な競争には、企業内の創造性や企業内の共創の豊かさや発想の広がりや独創的な製品開発やシステム開発また、専門分化する技術に対応する融合的な技術や幅広い問題解決能力が、企業の生き残りを決定するからでもある。

また、さまざまな課題解決への意欲的な問題意識や動機付け、行動を引き起こす異質な視点等が経営の中に定着することで、従来の枠を越えた付加価値創造の経営構造を早急に構築することが必要になっている。

このことは、空間という物理的な構築のみでなく、ネット上の場の作成やネットにおけるコミュニティの構築をも含む広範囲な創造空間競争でもある。

そこには、創造性を高める空間とツールが相互効果を出していくことが期待され、こうした投資の狙いが、長期的な創造性発揮や創造性開発の戦略要素と大きく関連することになる。

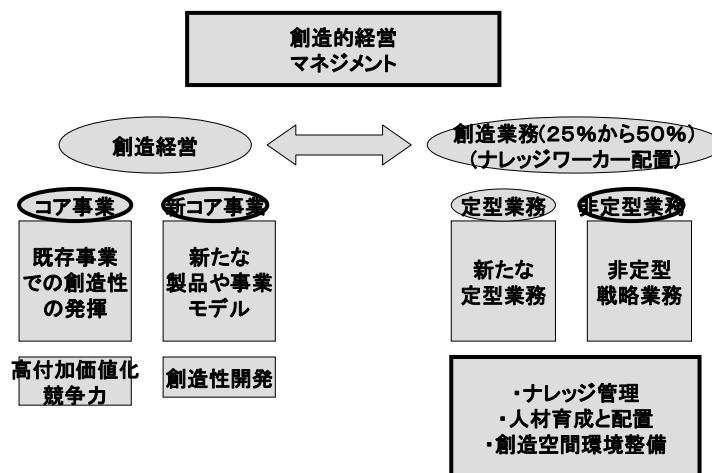
3. 創造空間の構築戦略

創造空間は、コア事業の創造性効果と新コア事業の創造性効果を如何に高めるかでもあるが、さらに今後ナレッジワーカーの拡大強化の経営戦略に対応して、創造空間の構築の緊急性が検討されなければならない。

企業における創造業務は、現在の25%（開発、企画部門）から50%へと拡大される。創造業務は、定型業務に於いても強化されなければならないが、非定型業務中でも創造的な非定型業務が重要な付加価値の業務要素になってくる。

3. 創造空間の構築戦略

1) 創造的経営のマネジメント



創造的経営の方向は、ナレッジの配置戦略であり、蓄積戦略の強化でもある。

創造的企業の新しい要素を抽出してみると、

・使命感・高い目標・斬新な雰囲気・情熱と価値観・前進あるのみ・世界をかえる行動・経営理念と情熱・参加の構造・魅力的な場所・交流・顧客のわくわく感・仕事を楽しむ・最高の人材を探す・一流の仕事・社員へ新しい経験・結びつき／ともに成長する・企業家・マーケットオブワン・切磋琢磨

等革新的な事業モデルとともに、創造的な人材の高い能力発揮の場が形成されようとしている。

米国EDSは、「企業向けITサービス企業」だが、04年に「アジリティー・アライアンス」と呼ぶ提携戦略を実現している。

EDSを中心に複数企業が、問題解決策を共同で企画し、開発する。ハード、ソフト、サービスの最高ソリューションを共同開発し、顧客に提供するもので、PJチームを編成して、顧客のレガシーシステム(情報資産)に詳しいそれぞれの知識を組み合わせる。

そこでは、情報ノウハウが交流する戦略デザインの間が創造されて行く。

4. 創造空間開発の能力競争の将来

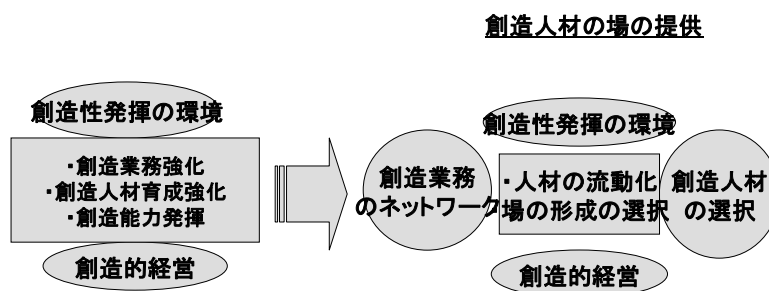
創造空間開発は、問題解決を多面的な視点や多面的な知識で、体系的に解決するという事業モデルの中に位置づけられる。

つまり、創造人材、創造知識に適確で最高の場を提供することによって、顧客や問題解決の仕組みの中に、包含されようとしている。

創造能力の優劣こそが、企業競争の条件形成になりつつある。

しかもこの知の融合を支える、仕組みやツールが開発され、コミュニティが形成されるならば、創造知の空間は世界的にネットワーク化され、柔軟で、やわらかい連携の中で、能力を発揮する仕組みになる。

4. 創造空間開発の能力競争の将来



企業にとって業務空間であるオフィス空間は、個の能力開発のみでなく、組織及び能力のエネルギーの高い場の形成を戦略的に構築する時代を迎えている。

また総合的な課題解決には、組織間の連携能力や創造的開発能力が重要になって行く。

また、雇用の多様化や現場空間と意思決定空間の機能的なネットワークが有効な機能を発揮することが重要になる。

日々実践的に変化する業務や付加価値を持続的に高めるためには、創造能力を開発し、発揮しつけられる環境形成を業務全体に亘って見直し、個を重視しながら、組織の仕組みとして創造性が強化されるような経営体系への変革が重要になっている。